



みやまえ Miyamae

滑川町立宮前小学校 学校だより

2月号 令和 3年 1月28日

電話 0493-56-2204 FAX 0493-56-2065

一週間後

先日、あるセミナーに参加したのですが、そこで考えさせられる体験をしたのでお伝えしたいと思います。

講師が、「もし、あなたが一週間後に亡くなるとしたら、何をあなたはしますか？ やりたいと思ったことをノートに全て書いてください」と言われたので、

『子ども達とできるだけ一緒に過ごす』とか、『奥さんに感謝の言葉を伝える』『社員に会社の将来を頼む』
などとノートに書きました。

全員が書き終わったのを確認すると講師は、「今、書いたことを現在、行っていますか？ 行っていない人はどうして一週間後で命が亡くなる場合にできて、時間が十分にある状況だとできないのでしょうか？」と言いました。

どうしてできないのだろうと考えているとさらに、「一週間後に100%、生きていけると言える人は世の中には一人も居ません。今やらなければ、いつやるのでしょうか？」と言われてしまいました。

毎日、忙しく仕事に追われていると、どうしても子ども達と過ごす時間や、家族に感謝の言葉を伝える時間、スタッフに夢を語る時間など、本当は大切な時間が削られていると気が付きました。その時間は無理にでも今、取らなければ決して取ることのできない時間だと反省させられました。

あなたも一週間後に亡くなるとしたら、「今、なにをするのか？」を考えて書き出してください。

そして、行ってないことがあつたら、「なぜ、今できないのか？」を考えて下さい。

きっと大切なことに気づくと思いますよ。

(「一週間後」、中山和義、フォレスト出版、「大切なことに気づく24の物語」、2007年、62頁)

1月のお話タイムで紹介した「一週間後」という文章です。一週間後に亡くなるとしたら何をするのかを考えた学級もあったようです。

私は、この文章を初めて読んだ時に「本当に大切なことはモノやお金ではない」「やらなければならないことをやってない」と思いました。皆さんはいかがでしょう。

人生には限りがあります。命はあなたが持っている時間なのです。

お子様に「何を？」と問いかけてくださった保護者もいらつしゃると伺いました。ご家族で話し合いの機会を設けてみてはいかがでしょう。

え段のことばをつかわないようにしよう

私の学校は去年から児童会で、「え段を使わないようにしよう」という「やさしいことばキャンペーン」をやっています。「てめえ」「しね」など、最後がえ段になっていることばを使わないということです。家庭が殺伐として、親も含めて、そういうことばの世界だと思えます。「食え」とか日常言っています。だからといって、すごい親かという、そうでもない。しかし、そのことばは限られた小さな世界のなかで通用することによって、一歩外に出た時にその言語を使って、人間関係がつかわれていくのかということも、教師のなかで心配していることです。(…)

ここ数年気にかかることは「自分のことばを引き取らない」ということです。「たぶん」「かもね」など、ことばを最後につけて、あとから追及がこないようにしています。断定で「そうです」ということばも使わないです。こうしたことは、家庭が学校化している子どもに多いのではないかと思います。

(「ことばから見える現代の子ども」、日本作文の会、百合出版、「作文と教育」55巻7号、2004年、8頁)

この文章は、渡辺恵美さんという小学校教師がお書きになったものです。「てめえ」「しね」と言われたらとても嫌な気持ちになりますよね。他にも「うるせえ」「きたねえ」「ばかたれ」など最後がえ段で終わることばはチクチク言葉が多いようです。

また、国語学者の大野晋さんは、「日本語で一番大事なもの」という著書で「日本語のとても古い時代にはエ段(え・け・せ・て・ね・へ・め・え・れ・ゑ)の音で始まる言葉はほとんどなかった。その意味で、ア段・イ段・ウ段・オ段に比べれば新しい音である(といっても二千年以上前の話だが)。そのため、後の世になってもエ段の音で始まる言葉は少ないし、あっても概して良い意味を持っていない傾向がある。」と発言されています。確かに、「でれでれ」「へた」「へなちよこ」「へぼ」「へま」などは、下品な感じがしますよね。

「え段のことばをつかわないようにしよう」みなさんも考えてみてください。

児童・保護者の活動、地域の皆様の活動

ふれあい会食

間もなく卒業を迎える6年生と「ふれあい会食」を実施しています。密を避けるために、距離を取って席を設けています。

将来の夢や進学への期待などの話題で楽しく過ごしています。



CRT 学力検査



6年生 租税教室
税理士会 根岸智仁 様